

秋田武蔵会

卒業してから50年

秋田武蔵会会長 赤沼 侃

しかし考えてみると、よくもまあ、こんな長い間働いてきたものだといながら感じています。

この春、武蔵を去って丸50年経ちました。同時に社会人になつて半世紀を経過したということですが、まだ会社務めをしています。友人たちからは「まだ現役だつて？」と驚かれますが「学生時代の不勉強が祟つて給与の低い会社に入れたので、長く勤めて君たちの生涯年収に追いつこうとしているのだ。若いときに流さなかつた汗は、老いてから涙となつて返ってくるんだ」と話しています。



東北エリアオールカミング集合写真

中学生の頃に観た映画で、題名も出演者も思い出せませんが、掛け軸の「茫々たり50年 人生夢の如し」という文言だけは、なぜか鮮明に憶えています。私の社会人生活も正に茫々たり50年で、自分は何かやり遂げたことがあるのか？と反省すること頻りの昨今であります。

高橋氏など懐かしい方々がおり、楽しく会話して、上機嫌で過ごしてきました。また「ちよんまげ隊」については、出で立ちから「どうせふざけた芸人だろう」と思っていたのですが、極めて真面目な活動をしている方だと解りました。外見で判断してはいけないということに改めて知らされました。詳しいことは事務局日よりを御覧ください。



昨年の総会

今年度の「秋田武蔵会」総会は、11月23日(土)午後6時より、ホテルメトロポリタン秋田で開催されます。今回は同窓会役員や学長が来られるか未定ですが、来られなければ気楽にワイワイやりましょう。また、青森武蔵会との交流についての意見交換もあるはず。ぜひ参加されて、秋田武蔵会に新風を吹き込んでください。よろしくお願いします。(秋田市/17E)

我が青春時代

鈴木 淳雄

昭和52年4月、桜の花びらが舞い散る頃、我が武蔵大学入学式に出席しました。各部サークルの勧誘の中、日に焼けた猛者苦しい男達に拉致され「鳥忠」にて酒をこたま飲まされ、ご馳走になりました。それがワンダーフォーゲル部(以下ワンゲル)との付き合いの始まりでした。田舎者の愚生は一宿一飯の恩義のような義理を感じ、ワンゲルへの入部を承諾してしまいました。

山中に聞いた「ビリジョエルのストレンジジャー」、3年の冬のバイトで新巻鮭を包装しながら聞いた「久保田早紀の異邦人」等、この思い出の曲は不思議なことに今でもカラオケで歌えます(最近の歌は覚えられないのに)。



右後方に富士山 寒そうですね

その後は年間8回の公式山行、夏と冬の合同アルバイト(夏は西武の配送センター、冬は今なき有楽町そごう)、先輩に誘われると断れない個人山行等々、年間の三分の一以上をワンゲルに費やす4年間でした。登った山は槍穂や剣などの北アルプス、北岳を含む白峰三山などの南アルプス、北海道知床、新潟越後の山々ですが、思い出すときには必ずその時流れていた歌も思い出します。1年の夏合宿、越後の道無き山中で聞いた「ピンクレディーの渚のシンドバッド」、2年の夏合宿、知床で負傷下

大学入学当時、山に全く興味が無かつた愚生ですが、現在では当時耳にしていた「トッピギヤランの青春時代」や「サザンオールスターズの勝手にシンドバッド」を聞きながら北東北の山々を登つて還暦後の青春時代を謳歌しています。そしてこれから時間に余裕ができたなら、日本百名山に挑戦したいと思っております。もちろんその時は「青春時代」を聞きながら。(秋田市/29E)

54年前のアメリカ一周旅行

菊地 宏

東京オリンピックの翌年、昭和40年2月17日横浜港大橋から、米国APL社の貨客船プレジデントウイルソン号2万5千トンでアメリカ力経済研究会会員15名がアメリカに向けて出発した。主な目的は、この目でアメリカを見ることであつた。



当時は、学生の海外旅行のハードルは高く、学長の渡航許可、アメリカの大学の招待状を準備し、研究会名でのパスポート、ビザ申請でこの旅行が実現したものであつた。この旅行の決まりごとは、米国内での行動は全て各自自由、4月1日サンフランシスコ発プレジデントクリーブランド号で帰国することの2つであつた。

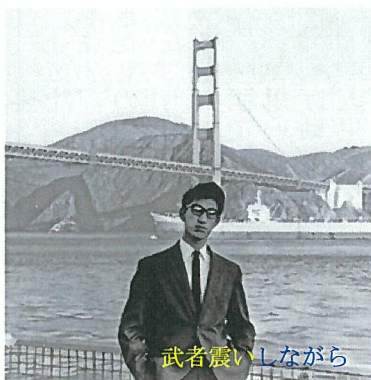
日程は船で往復1ヶ月、米国内滞在1ヶ月の計2ヶ月、費用は船賃往復100ドル、グレイハウンド社大陸横断バス乗り放題チケット100ドル、その他滞在費500ドルで合計700ドル(1ドル360円の時代)25万円

であつた。

船で与えられたスペースは船底の機関室隣りのベッド1台のみ、正に貨物扱い。旅行中の宿泊は走行中のバス泊が基本の貧乏旅行であつた。

船での生活は、ベッドは寝る時だけ、日中は殆んどラウンジで他の外人旅行者と話したり、様々なゲームをして過した。大荒れの太平洋での木の葉の如く揺れる船のあの恐怖は二度と経験することは無いと思われるほど、スゴイものであつた。

2月22日、日付変更線を通り、24日朝ハワイホノルル港に到着、揺れない大地で一時的に酔いから解放された仲間達の喜び顔が今でも思い出される。



武者震いしながら

3月1日早朝、ゴールデンゲートブリッジの下を通りサンフランシスコに到着した時に感じた武者震いは今でも忘れられない。バスでの米国一周旅行であつた。

つたが、あれから50有余年、今でも目に浮かぶのは、サンフランシスコツインピークスから夜景、カリフォルニア大学バークリー校、及びスタンフォード大学の広大なキャンパス、ニューオーリンズ、フレンチクオーターの街並み、ノースキャロライナ大学に留学中の幼馴染との再会、ニューヨークエンパイヤステートビルから見る摩天楼の眺め、セントラルパーク、ロックフェラーセンターの静けさ、独特の雰囲気、国連ビル、緊張感漂うホワイトハウス米大統領執務室、巨大なリンカーン像が設置されているリンカーンメモリアル、米国各州の石で創られている石塔ワシントンモニュメント、壮大な感じのする議会議事堂、真冬の凍り付いたナイヤガラの大理石、デトロイトの巨大なフォードの自動車工場、異様な緊張感漂うシカゴのバスターミナル、ソルトレイクで目にしたモルモン寺院の壮麗さ、ヨセミテ国立公園のエルキャピタン及びハーブドーム等の雄大な眺め、ギャンブルの街リノのネオンサイン、等々今でも脳裏に焼き付いている。

4月15日横浜港に到着し、この旅行も無事終了。この旅行で得たアメリカの印象は、

とにもかくにも国のスケールの大きさと、各地に残っている反日感情の強さであつた。僅か2ヶ月の旅行であつたが、帰国後目にした東京の景色が前と違って埃っぽく見えたものであつた。

また、忘れられない人との出会いもあつた。船で知り合ったサンフランシスコの近く、サンノゼ市在住のジョーンズさんに誘われて自宅を訪問。一晩泊めて戴いた時の話「ミスターキクチ、ここに半年間残らないか？君をABC放送のアナウンサーにしてやるよ」残念ながら、その誘いに乗る勇気がなくお断りしたが、もしあの話を受けていたら、その後の人生はどうなっていたか、我が人生一番の「タラレバ」かもしれない。

今考えてもあの時代、よくやったものだな、恐いもの知らずの若さはすごいものだと思ふ。



筆者近影

遠い遠い昔の学生時代の思い出である。

(由利本荘市 / 14 E)

事務局だより

佐々木 勉

9月7日、創立70周年記念東北エリアオールカミングが仙台市で開催されました。秋田県支部からは10名が参加し総勢92名により盛大に式典が行われました。

講演を行った「ちよんまげ隊のツンさん」こと34回生の角田さんは、東日本大震災をはじめ被災地の復興支援に力を注いでいる方です。講演の中で見せていただいた角田さん制作のドキュメンタリー映画「マーチ」は、今を遅く生きている南相馬市の子どもの姿が描かれており、もう一度、心を一つに被災地に思いを馳せるような素晴らしい内容でした。



↑ツンさんと

学生時代、チームは違ってもテニスサークルに所属している人の殆どは、角田さんを知って目立つ先輩でした。

今も変わらず頑張っている角田さんの活動に感銘を受けた一日でした。

(秋田市 / 35 M)